



CASBEE®-建築(新築)2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	MFLP・LOGIFRONT 東京板橋	階数	地上6F
建設地	東京都板橋区	構造	S造
用途地域	工業専用地域、準防火地域	平均居住人員	1,550 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年9月 竣工	評価の実施日	2025年3月5日
敷地面積	91,256 m ²	作成者	日鉄エンジニアリング株式会社
建築面積	44,318 m ²	確認日	2025年3月5日
延床面積	255,731 m ²	確認者	日鉄エンジニアリング株式会社

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.9

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 3.7

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.9

3 設計上の配慮事項		その他
総合 多くのテナントが入居する大型物流施設として、天井高さの確保等倉庫としての機能効率に優れ、免震構造の採用や冠水対策、BCP対策を行い、地域住民に供する公開空地を設け、ラウンジなど利用者への快適性にも配慮した施設を目指す		0
Q1 室内環境 用途が倉庫のため評価対象外	Q2 サービス性能 ②地震時の揺れを防止または低減できるよう免震装置を採用 ③発電機の設置などによりBCPに配慮 ④階高が高く、壁長さ比率が低く、床荷重が大きいこと	Q3 室外環境 (敷地内) ②緑地面積の確保や中高木の配置、車路等の空地を確保することで、敷地内温熱環境を向上 既存の公園と一体整備した公開空地を設けることで、一体性のとれた景観形成を図った
LR1 エネルギー ①高効率型照明器具を採用 中央監視装置により主要な用途別エネルギー消費量を年間にわたって把握できる	LR2 資源・マテリアル ①節水型衛生機器の採用など水資源の保護に配慮 ②主要躯体に免震装置や高強度材料を採用するなどの工夫を施し、使用材料の低減を図った ③内装材と躯体の分離を容易にし、改修時の部材解体が最低限になるよう配慮	LR3 敷地外環境 ②空調や給湯器の熱源に燃焼機器を使用せず、大気汚染防止を図る 中高木による地表面被膜の確保、隣棟間距離による通風の確保により温熱環境を改善 msる3従業員駐車場や駐輪場の確保、車両の出入り口配

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

MFLP・LOGIFRONT 東京板橋

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

スコアシート		竣工段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.7
Q1 室内環境								-
1 音環境				-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		—		-	-	3.0	-	
1.2 遮音				-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		—		-	-	3.0	-	
2 界壁遮音性能		—		-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		1.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		—		-	-	3.0	-	
2 温熱環境				-	-	-	-	-
2.1 室温制御		—		-	-	-	-	
1 室温		—		-	-	3.0	-	
2 外皮性能		記入例;エアフローウインドウの採用		-	-	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		—		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		—		-	-	3.0	-	
2.3 空調方式		—		-	-	3.0	-	
3 光・視環境				-	-	-	-	-
3.1 屋光利用		—		-	-	-	-	
1 屋光率		—		-	-	3.0	-	
2 方位別開口		—		-	-	3.0	-	
3 屋光利用設備		—		-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策		—		-	-	-	-	
1 屋光制御		—		-	-	3.0	-	
3.3 照度		—		-	-	3.0	-	
3.4 照明制御		—		-	-	3.0	-	
4 空気質環境				-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		—		-	-	-	-	
1 化学汚染物質		—		-	-	3.0	-	
4.2 換気		—		-	-	-	-	
1 換気量		—		-	-	3.0	-	
2 自然換気性能		—		-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		—		-	-	3.0	-	
4.3 運用管理		—		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		—		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		—		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.9
1 機能性				-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		—		-	-	-	-	
1 広さ・収納性		—		-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		—		-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		—		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		—		-	-	-	-	
1 広さ感・景観		—		-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		—		-	-	-	-	
3 内装計画		—		-	-	3.0	-	
1.3 維持管理		—		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		—		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		—		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.5	0.50	-	-	
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.4	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		—		5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		—		3.7	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		—		5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		消火(SGP白)、給水(VLP)、排水(VP)		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		受変電設備(25)、発電機(30)、空冷パッケージ型空調機(15)、FRP製設備(20)		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		—		3.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		—		4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		—		4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		—		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		—		5.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			4.2	0.50	-	-	4.2
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	—	5.0	0.60	3.0	-	
	2	空間の形状・自由さ	—	5.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		—	5.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.57	-	-	3.7
1	生物環境の保全と創出		—	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	官民連携による高台まちづくり(水害時緊急一時退避場所整備)	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	4.0
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制		モデル建物法	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		モデル建物法	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	7太陽光発電設備	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.8
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	大便器が節水型器具、擬音装置付	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
	2.1	材料使用量の削減	—	4.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	舗装、床材、天井材	5.0	0.22	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	—	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	5.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	R410A	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.9
1	地球温暖化への配慮		—	4.8	0.33	-	-	4.8
2	地域環境への配慮			4.1	0.33	-	-	4.1
	2.1	大気汚染防止	空調・給湯機器等の熱源に電気を使用。	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	4.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		2.3	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	2.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	日影規制が無い	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

MFLP・LOGIFRONT 東京板橋

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	2.0	-	-	-	-	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	○	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	-	○	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	5.0		○	○	○	○	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	11.0		2.0	-	3.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	1.0					
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		-	1.0	1.0	3.0	1.0	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	3.0		-	1.0	2.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	16.0		1.0	-	2.0	3.0	3.0	3.0	-	2.0	-	2.0			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率(η) -			
U値(W/m2K)		窓システム 4.0	屋根 2.0	外壁 2.0	床 2.0
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -		η AC -	η AH -
屋光率	1.5%				
自然換気有効開口面積率	3.3%				

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上り材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上り材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	6.0㎡ /人	病床	8.0㎡ /床	シングル	15.0㎡ ツイン	22.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡					
天井高	2.5 m					
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%			
想定耐用年数	25 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	15 年					
階高	6.6 m					
壁長さ比率	4.1%					
床荷重	15000 N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	58%	建物緑化指数	0%												
空地率	51%	水平投影面積率	11%	地表面対策面積率	36%	舗装面積率	29%								

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.73	断熱等性能等級	等級4 相当												
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	80.0%										
		通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	80.0%										
BEI/BEI _m	非住宅	-	住宅	-	太陽光	4,362.9kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW					

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目	土工用高炉水砕 ₂ エコマーク商品	長尺塩ビシート、岩綿吸音材	特定品目等	-	
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1430		
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	2090		

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	59%	隣棟間隔指標R _w	1.60												
地表面対策面積率	54.0%	屋根面対策面積率	89.0%	外壁面対策面積率	0.0%										
見付面積S _b	10,162㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	493.7 m	基準高さH _b	34.81 m										
緑地	#####	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	39,553㎡	再帰性反射対策面	㎡						